

多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン 2017

日本神経学会 監修 「多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン」作成委員会 編

日本神経学会監修の『多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン 2017』が出版された。同学会は2010年に多発性硬化症治療ガイドラインを作成しているが、今回のガイドラインは患者および家族も対象にし、治療だけでなく診断、検査さらには医療経済、社会資源まで診療全般に関するガイドラインになっており、改訂版ではなく内容構成が全く異なる新ガイドラインである。

特徴は診療において問題になる重要事項を漏れなく質問し、回答するQ&A形式で作成されていることである。回答は1990～2015年の25年間に発表された両疾患に関する全ての論文を医学文献検索専門家と疫学専門家も加えた作成委員会で検討した上でなされている。検索された論文には本邦からの小規模の研究報告も無視せずに含まれている。これらの論文を基にしてガイドライン作成委員会は委員の意見が一致するまで協議し、有効のエビデンスがあると意見が一致した治療法は強弱をつけた推奨度を付して紹介されている。作成委員間で意見の一致が得られないあるいは有効の根拠がまだ不十分な治療法は推奨度を付さずに紹介されている。

多発性硬化症では疾患修飾薬による再発予防が主流になっているが、その種類、効果、副作用、投与方法および薬価まで詳細に説明されており、薬剤の選択

に際して極めて参考になる。また両疾患ともにしびれ、運動麻痺、排尿障害など神経症状が急性期を過ぎても残存することが多いが、有効な対症治療法も推奨度を付して紹介されているのでありがたい。

今回のガイドラインは患者および家族も対象にして作成されており、医療費補助など利用可能な医療福祉制度が手続きの仕方を含めて紹介されている。さらに診療する医師にとっては、両疾患で行う特殊検査が何回まで保険適応になるかが記載されているので極めて有用である。

本書は多発性硬化症、視神経脊髄炎の診療に関する全てを網羅した秀逸のガイドラインである。このようなガイドラインを作成された松井真委員長および作成委員の諸先生のご努力に敬意を表し、深謝したい。本書は患者、家族を対象にしているので非常にわかりやすく記述されており、医師だけでなく、医学生、看護師、介護士などの医療福祉関係者の方々にも強く推奨する必携・必読書である。

福岡記念病院・院長
黒田康夫

B5・頁 352 2017年 06月
定価：本体 5,400 円＋税
[ISBN978-4-260-03060-1] 医学書院刊